2025 年 2 月 27 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷知子
教務主任名	鈴木博雄

200 字以内

今期の総評
論文執筆や学会発表を順調に進めており、個別指導や講演会の実施に対して感謝の声が寄せられている。一方で、単位認定の柔軟化や進路支援の充実、研究環境の改善を求める意見もある。特に、院生室の使いやすさやコピー機の利便性、研究費の利用条件の見直しを求める声もある。これらの要望を踏まえ、大学として研究環境をより充実させるための具体的な改善策を引き続き検討する必要がある。

200 字以内

改善のための方策
単位認定の柔軟化、進路支援の充実、研究環境の改善を求める声が寄せられている。他大学で取得した単位の認定基準の見直しや、必要単位を修得した後に多様な進路を選択できる仕組みの検討を進める。また、院生室のレイアウト変更やコピー機の使いやすさの向上、研究費の利用条件の緩和を進めることで、研究環境の改善を図る。さらに、進路支援を強化し、大学院生のキャリア形成を支援する体制を整備する。

2025 年 2 月 20 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200 字以内

今期の総評
３名の在籍者による評価であり、１名の回答が結果に大きく影響することをふまえて総評したい。カリキュラムについては開設授業科目数のポイントが全体として低めである。指導については１名の評価が低いが、他の２名の評価は高い。ラーニングコモンズの利用率が高くないのは図書館を利用しているためだと思われる。院生自身については、おおむねよいが、学会参加が積極的ではないと読み取れる。

200 字以内

改善のための方策
開設科目については、来年度は新専攻になって、共通科目や他の領域の科目の履修も可能になるので、様子を見たい。学会への参加については、新専攻で行う研究会をはじめ、院生が参加しやすい学会活動を紹介し、積極的な参加を促したい。

2025 年 2 月 27 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑　由美
教務主任名	金子　弥生

200 字以内

今期の総評
院生一人一人が熱心に授業に取り組み、総じて大学院での授業内容や論文指導に満足していることがわかる。一方で、現在の研究が将来の進路につながるか、確信を持てない学生もいることは確かである。学会参加に関しては、以前よりも向上している。

200 字以内

改善のための方策
現在の研究が将来の進路に直接つながることは難しいかもしれないが、少しでも学びを活かせる進路を、キャリア支援センターとも連携して、模索していきたい。また、学会参加度は、徐々に向上しているので、今後も学会や研究会を院生に紹介することで、参加度を上げていきたい。

2025 年 2 月 27 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	森博英
教務主任名	大場美和子

200 字以内

今期の総評
全項目において 4 点台の平均点で（総評 4.67)、最も高い 4.78 が「専門的な力が付いたか」の回答であり、専攻での学びが評価されている様子がうかがえる。「学会・研究会活動」も 3 点台から 4.00 となり、教員側の積極的な働きかけの効果が見えてきたと考えられる。

200 字以内

改善のための方策
「研究テーマの進捗」に関しては前期から変化はみられなかったため、特別演習を中心に学生への働きかけを継続して行う。自由記述には、ウォーターサーバーの設置、日本語教育課程で日本語教員試験の一部を充たす科目の開設に関するコメントがあった。 どちらもコメントの本質（環境保全、試験対策）をふまえた対応を関係部署とも相談しながら検討したい。

2025 年 2 月 28 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	大谷津早苗
教務主任名	中山　榮子

200 字以内

今期の総評
カリキュラム･授業の領域では、高い水準を保っているといえよう。院生領域では少々点数が辛くなっていた。博士課程では独立した研究者として世の中で認められる人材を育てており、特に社会人学生や留学生を温かく見守る必要があろう。

200 字以内

改善のための方策
問 9 に関しては、購入予定であったプリンタが FD アンケートの後に院生室に届き、大変喜んでもらった。 問 12　本専攻は独立した院生室を有しているため、毎回この点数は高くないが、社会人でラーニングコモンズなどが不要な院生がその存在を知らないからであろう。

2025 年 2 月 28 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200 字以内

今期の総評
各項目についておおむね高評価（４から５）を得ることができた。授業に関するリアクションが遅い、年間を通しての課題の提出時期や要項を可視化してほしいとの要望については、課題として認識している。

200 字以内

改善のための方策
問い合わせのリアクションについては、社会人学生を受け入れているという認識のもと、ビジネスの現場の基準に沿う形で期限を設定して対応できるような仕組みを作る。課題の提出については、前年の例を提示するなどしてスケジュール設定の参考にしてもらうことは可能なので、今後検討したい。

2025 年 2 月 25 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	横塚昌子
教務主任名	白川哉子

200 字以内

今期の総評
総評は平均より、4.2 であった。評価が 4.0 以下であった項目の中で、「院生研究室やラーニングコモンズの利用」に関して、学外で実験をしている院生の利用率が低いためと考えられる。オンライン機能を含めて文献・資料の検索・収集には、どのような資料を必要としているかについて、希望を確認したい。研究室の諸活動や学会などへの参加や自分の研究テーマの進展具合については、本年度は 1 年生だけの結果であるので、進捗状況を確認し、今後修論をまとめるにあたり、参考にする。

200 字以内

改善のための方策
大学院の授業に対する評価は、高い傾向であった。本年度より開講した「生活科学総合研究」の開講日、曜日、講時については、事前に再度担当教員から確認するように改善したい。研究室の諸活動や学会への参加については、各院生の意見を聞く機会を設け、2 年次では、修論をまとめるにあたり、計画的かつ積極的に、研究に取り組む方向性を指導教員とも話し合い、活発な研究活動を支援する必要があると考える。

2025 年 2 月 26 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	榊原 良太

200 字以内

今期の総評
「カリキュラム・授業」に関する項目は 1 項目を除いて平均が 4 を超えており、授業や研究指導に対して概ね高評価を得ていると言える。「研究室の諸活動や学会などへの参加」に関する項目の平均が 3.5 と、他の項目と比べてやや低い値となっているため、学内の研究会や学会への参加促進が十分ではなかった可能性がある。なお、自由記述のコメントについては、それぞれ対策を検討した後、学生へ具体的な対応を明示していく。

200 字以内

改善のための方策
「研究室の諸活動や学会などへの参加」がやや低い値となっている点について、具体的な活動や学会を明示したり、それらへ参加することのメリットを説明したりすることで、学生の動機づけを高めることが効果的であると考える。また、実際に諸活動や学会へ参加した学生の体験談に触れる機会を設けることも有効であるだろう。引き続き充実した教育・研究指導に取り組むとともに、学内の研究会や学会など活動に目を向けるような働きかけを行っていく。

2025 年 2 月 21 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田　佳子
教務主任名	川﨑　愛

200 字以内

今期の総評
在籍者全員がコンスタントに大学院に来ていないなか、11 名中 8 名（72.7%）の回答があった。期待以上に自身の研究テーマに役立つ授業の内容（4.75）であり、指導教員や授業担当者による研究指導は熱心かつ丁寧に実施されていた（4.88）ことがアンケート結果から読み取れた。教員への感謝のコメントが複数書かれていた。

200 字以内

改善のための方策
授業内容の満足度は高いものの、将来の進路情報に関しては少し物足りなさを感じていること（3.88）がうかがえた。基礎学科が２つあり、院生各自の研究テーマは個別性が高いため、学会活動等の参加（3.14）は多くない。専攻の特性としてフィールドワークやインタビューなど学外での学びの機会の活用と専門職大学院の院生との同時履修科目を通して多面的な学びの機会を拡充していく。

2025 年 2 月 28 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村久美子
教務主任名	番場美恵子

200 字以内

今期の総評
評価が高く、研究活動に支障なく取り組んでいることがうかがえる。細かな改善点などについては、直接ヒアリングを実施していきたい。

200 字以内

改善のための方策
来年度は上級学年が不在であるので、新入学生が大学院での研究や活動がスムーズに行えるようコミュニケーションをとり、必要に応じてヒアリングを行いたい。

2025 年 2 月 22 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	中村　徳子
教務主任名	白數　哲久

200 字以内

今期の総評
設問 17 項目中 15 項目で 4.0 以上であることから、院生が順調に学修し総じて満足していることが伺える。設問 6・14 が共に 5.00 であることから、担当教員による修士論文作成に向けた指導が丁寧に行われ、院生の期待に沿っていると考えられる。 その他、記述から読み取れる改善すべき点は、院生室のプリンターが使いにくいということと、学会や研究会への参加の機会が少ないということである。しかし、プリンターを使えている院生や、学会に参加している院生もいることから、個人によって状況は異なっている。

200 字以内

改善のための方策
院生室のプリンターは院生室の PC と接続していて個人の PC とは接続しないことから、USB メモリーなどでデータを移してプリントアウトする必要があり、手間がかかった。そこで、2 月にインクジェットプリンターを 1 台購入し、個人の PC に直接つなげるように準備をしている。学会や研究会については、院生の修士論文作成のペースを見ながら可能な限り参加を促していきたい。

2025 年 2 月 18 日

2024 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷　美砂子
教務主任名	李　恩心

200 字以内

今期の総評
専門職大学院のカリキュラムや授業内容、研究指導に対する満足度は高い評価が得られた。特にオンデマンド講義が充実しているとの評価であった。しかし、社会人院生の立場からは院生の研究テーマに沿った授業内容の充実や研究活動への計画的な指導、院生の研究活動（特に学会等への参加）について課題が見られる。

200 字以内

改善のための方策
カリキュラムに対する期待度や満足度をさらに高めるための工夫が求められる。研究指導に対する改善点が多く挙げられたことから、今後は論文執筆のための指導やサポートを強化していく。また、保育分野の内容を充実してほしいとの意見が上がっているため、次年度以降検討する。修業期間については、仕事との両立の難しさや適切な研究指導のためのカリキュラムの見直しが求められているため、研究指導の在り方を含めて継続検討していく。